100億宣言

株式会社スザキ（金属製品製造業）

株式会社スザキ



本社工場（八尾市楠根町）

〇本社所在地：大阪府八尾市
〇事業概要：小ねじ・タッピングねじ・座金組込ねじ・長尺ねじ・キャップボルト等の製造販売
〇常時使用する従業員：22名
（2026年10月時点）
〇現在の売上高：19億円
（2026年2月期）
〇法人番号：4122001022841
〇Web：http://www.suzaki.ecnet.jp/index.php

企業理念・100億宣言に向けた経営者メッセージ



代表取締役
須崎　敏充

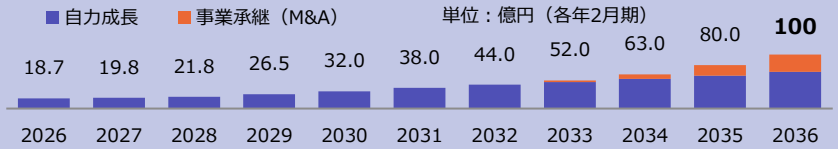
ねじ一本で、日本のものづくりの未来を支える

1970年に先代が八尾で始めた小さなねじ工場を原点に、「安く、不良を出さず、納期を守る」ねじを作り続けてきました。ねじは小さな部品ですが、一本欠ければ自動車も家電も、ロボットや半導体工場も動きません。需要が大きく変わる今を好機と捉え、高速設備への投資と、後継者難に悩む同業者の技術と雇用を引き継ぐ事業承継で、2036年に売上高100億円を実現します。成長の成果は賃上げと働きやすい職場づくりで社員に還元し、若い人が誇れる「八尾のねじ屋」として、地域のものづくりを次の世代へつなぎます。

売上高100億円実現の目標と課題

実現目標

2036年に売上高100億円の達成に向け、年率18%程度の成長を目指す。前半5年は設備投資で、後半5年は事業承継で伸ばす。



課題

・40～50年前の低速機が残り、増量注文に応えきれない
・段取りの標準化と若手の採用・育成
・分散する工場の集約と、新工場の用地・建屋の確保
・EV・ロボット・半導体・データセンター向けの提案力の強化
・M&A先の探索と統合後の運営、新工場・M&Aの資金確保

売上高100億円実現に向けた具体的措置

目指す成長手段

・2027年度に高速圧造機9台を導入し、汎用ラインの日産を約55万個から120万個に拡大。2028年度以降も高速機を順次増設
・長尺・特殊ねじの小ロット生産とキャップボルトのOEMを拡大
・EV・ロボット・半導体・データセンター向けの精密小ねじを商社と連携して提案し、国内市場でのシェアを拡大
・2030年に第3工場隣接地で第5工場を稼働し、工場を集約
・2032年度以降、後継者不在の同業者を事業承継型M&A（事業譲受・吸収合併）で順次承継し、技術と雇用を地域に残す

実施体制

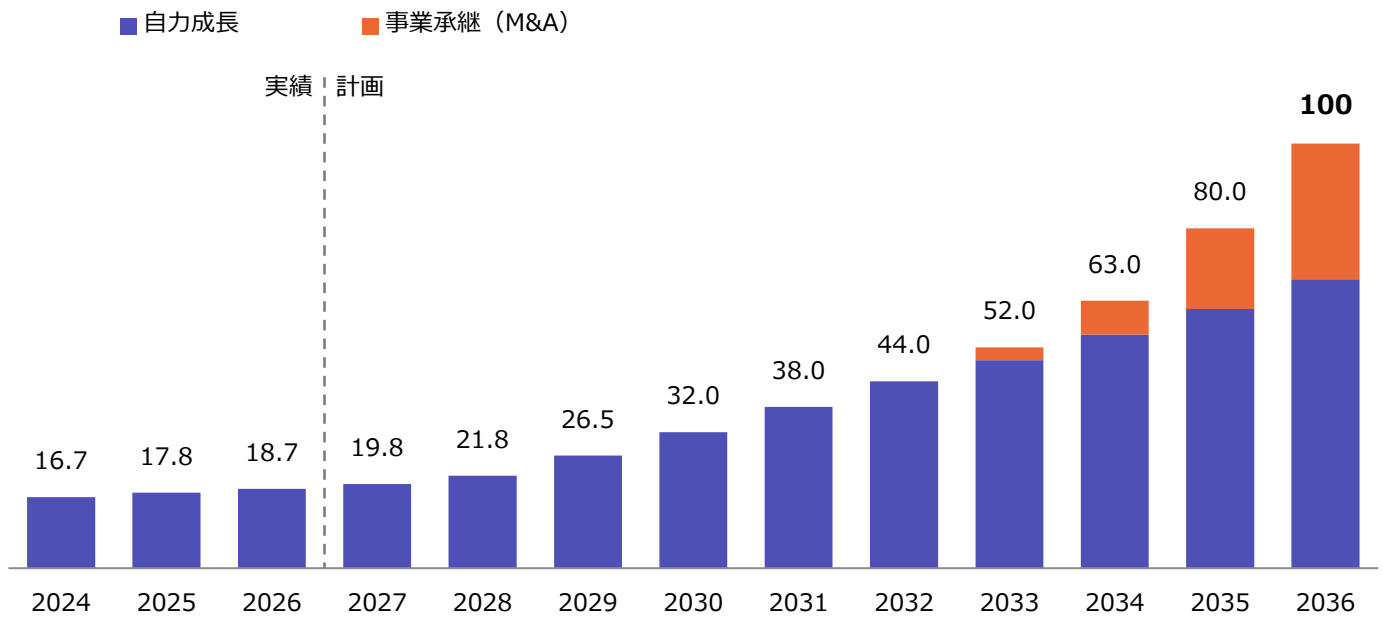
・現状：代表取締役2名と工場長・営業部長を中心としたワンチーム体制。従業員22名のシフト制で、休日も少人数で設備を稼働
・2027年に経営企画機能を新設（KPI管理・投資計画・M&A探索）
・多台持ちの社内認定と段取りのデータ化で若手を育成（1人当たり担当台数を10台から15台へ）
・品質保証の担当を明確にし、全数選別・検査の体制を強化
・取引金融機関と計画を共有し、M&Aでは外部の専門機関を活用
・2036年に約80名体制（機械化を徹底し高い生産性を維持）

※本宣言は企業自身がその責任において売上高１００億円を目指して、自社の取組を進める旨を宣言するものです

株式会社スザキ（金属製品製造業）

売上高100億円への成長シナリオ（補足）

売上高の推移と計画　（単位：億円、各年2月期）



2036年の売上高100億円の内訳（計画）

区分	2036年
一般・標準ねじ	50億円
長尺・特殊ねじ	5億円
キャップボルト（OEM）	5億円
精密小ねじ（新分野）	5億円
その他	3億円
事業承継（M&A）	32億円
合計	**100億円**

①　量産能力の倍増

2027～2029年2月期

2027年度に高速圧造機9台を導入し、汎用ラインの日産を2倍以上に拡大。2028年度も高速機10台等を増設し、能力をさらに高める

→ **2029年2月期　26.5億円**

②　新工場と新分野

2030～2032年2月期

2030年4月に第3工場の隣接地で第5工場を稼働し、工場の集約を進める。EV・ロボット・半導体・データセンター向けの精密小ねじを拡大

→ **2032年2月期　44億円**

③　事業承継で拡大

2033～2036年2月期

後継者不在の同業者2～3社を事業譲受・吸収合併で承継し、技術と雇用を地域に残す

→ **2036年2月期　100億円**

成長を支える当社の強み

- 休日・祝日もシフト制で設備を稼働させ、少人数で短納期と低コストを両立
- 鉄とステンレスの小ねじから長尺ねじ、キャップボルトまで一社で供給
- 長尺ねじ用・検査用の専用選別機による品質保証
- 機械メーカーの統一で、若手がどの機械も扱える多台持ち体制へ
- 若手が中心となりSNSで情報発信し、採用・認知の向上に取り組む